



リオ＋20(国連持続可能な開発会議)にみる 環境分野の国際情勢

環境省 地球環境局 国際連携課

2012年11月22日(木)

「国連環境開発会議」(「地球サミット」 (UNCED))(1992年)とは？



- 地球温暖化、酸性雨等顕在化する地球環境問題を人類共通の課題と位置付け
- 「**持続可能な開発**」という理念の下に環境と開発の両立を目指して開催された
- 当時の国連加盟国約180カ国、100カ国余の元首または首相が参加
- 産業界、市民団体、NGOなどのべ4万人が参加

＜成果＞

- ・環境と開発に関するリオ宣言の採択
- ・気候変動枠組み条約の署名
- ・生物多様性条約の署名
- ・森林に関する原則の採択
- ・アジェンダ21の採択
- ・地球環境ファシリティ(GEF)の設立
- ・国連持続可能な開発委員会(UNCSD)」の設置



共通だが差異ある責任（第7原則）



Common but Differentiated Responsibility (CBDR)

地球環境問題に対しては共通責任があるが、各国の責任回避への寄与度と能力とは異なっているとする考え方。

※気候変動枠組み条約に規定あり。

（先進国）

2012年の世界の成り立ちは1992年とは異なるし、2012年はもっと異なる。

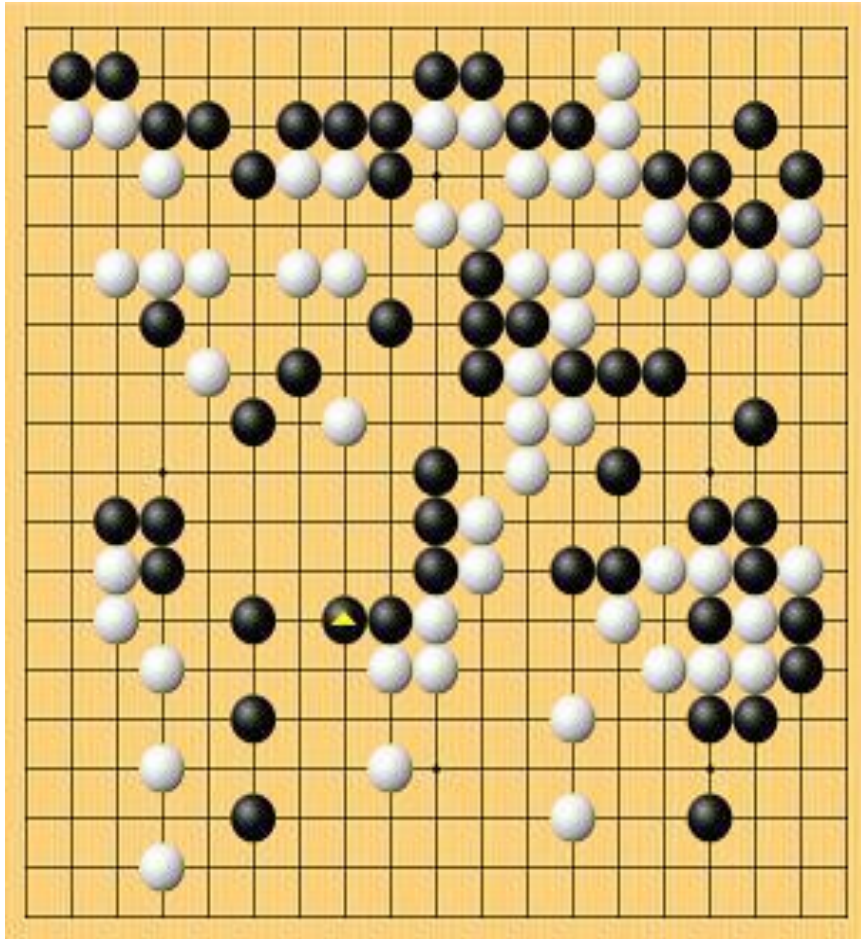
（途上国）

原因の大部分は先進国にある。対処能力も異なっている。

<リオ+20では>

- 成果文書議論の過程では、途上国があらゆる事項について言及することを主張
- 成果文書では、2箇所（パラ15 リオ宣言、パラ191 気候変動）

1992年の世界観



2012年の世界観



出典 : zzziyuu.exblog.jp

出典 : <http://yokoken-rakusyou.at.webry.info/theme/6d6e0e9bac.html>

国内格差＞国家間格差



米国



中国



出典: japanese.irib.ir

出典: <http://blogs.yahoo.co.jp/ririka721mimiya/21146113.html>

「持続可能な開発 (Sustainable Development)」とは？

1972: 国連人間環境会議 (ストックホルム会議)

1987: 「ブルントランド委員会報告書 (*Brundtland Report*)」
⇒ 「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たすこと」

1992: 環境と開発に関する国際連合会議 (UNCED): 地球サミット
⇒ 環境と開発に関するリオ宣言、アジェンダ21
・当初予定していた宮澤総理の出席は実現せず、竹下元総理、中村環境庁長官等が参加。

2000: ミレニアム開発目標 (MDGs) の策定

2002: 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD: ヨハネスブルグ・サミット)
・我が国から小泉総理、川口外務大臣、大木環境大臣を始め500人近い政府代表団が参加

2012年6月20-22日:
国連持続可能な開発会議
(UNCSD: 「地球サミット」「リオ+20」)

2015: ポスト2015開発アジェンダの策定



RIO+20
United Nations
Conference on
Sustainable
Development

リオ＋20



会議の目的:

- 持続可能な開発に関する新たな政治的コミットメント
- 持続可能な開発に関する主要なサミットの成果の実施における現在までの進展及び残されたギャップの評価
- 新規及び顕在化しつつある課題への対応
 - ⇒ 持続可能な開発目標(SDGs)
 - ⇒ 優先課題(エネルギー、都市、防災等)

主要な2つのテーマ:

- (a) 持続可能な開発及び貧困根絶の文脈におけるグリーン経済
- (b) 持続可能な開発のための制度的枠組み

国連持続可能な開発会議(リオ+20)成果概要

1. グリーン経済

【先進国と途上国のスタンス】

- 先進国:グリーンな産業へ投資拡大による経済の活性化を国際的に推進するための政治的合意を志向。
- 途上国:グリーン経済の達成に必要な資金と技術が先進国から提供される限りにおいてその推進に協力する意向。

【成果文書に盛り込まれた主な内容】

- ①各国がグリーン経済を持続可能な開発を達成するための有力な手段であることを認識。
- ②各国がそれぞれの実情に応じてグリーン経済達成に向けたアプローチを選択。
- ③グリーン経済の実現に有効な施策集や成功事例を各国で共有。

2. 制度的枠組み

【成果文書に盛り込まれた主な内容】

- ①国連環境計画(UNEP)の機能強化(具体的内容は第67回国連総会<2012年9月>で決議を採択予定)
 - ・「国連本部から拠出される通常予算」や「任意拠出金」の増額。
 - ・管理理事会の普遍的加盟方式を確立し、全ての国が平等にUNEPの意志決定に参画できるようにする。
- ②持続可能な開発委員会(CSD)に代わり政府間のハイレベル会合を設立
 - ・従来の事務方による会合ではなく、政治家が参画し持続可能な開発に関わる様々な約束をフォローアップする。
 - ・第68回国連総会(2013年9月)までに第1回ハイレベル政治フォーラムを開催することに合意。

3. 持続可能な開発目標(SDGs)

【成果文書に盛り込まれた主な内容】

- ①SDGs設定に向けた準備について第67回国連総会に着手することに合意。
- ②策定プロセスについて、政府間交渉プロセスの立ち上げや専門家で構成される作業部会の設置に合意。
- ③2015年に目標期限が来るミレニアム開発目標(MDGs)の後継(ポストMDGs)と整合的に統合されるべき。
- ④国連総会の下に政府間会合を設置し、2014年までに持続可能な資金戦略を検討することに合意。

リオ+20への評価

成果文書は必ずしも政治的な色彩が強いコミットメントとはならなかったが、グリーン経済に関して、今後、途上国を含め、その重要性が認識され実施に移すこととなれば、リオ+20は大きな転換点であったと評価されうる。

日本政府提唱「緑の未来」イニシアチブ



環境未来都市の世界への普及

- ◆ 我が国の「環境未来都市」づくり経験の同時進行共有
 - 途上国の都市開発関係者を環境未来都市等に年間100人招聘
 - 「環境未来都市」構想に関する国際会議を日本で開催
- ◆ 途上国への支援（日本版環境配慮型都市の展開）

世界のグリーン経済移行への貢献

- ◆ 我が国の知見共有、途上国のグリーン成長戦略策定・実施を支援
 - 政府間対話の強化
 - 緑の協力隊（3年間で1万人の専門家養成など）
- ◆ 環境・低炭素技術導入のための途上国支援（3年間で30億ドルの支援）

最終強靱な社会づくり

- ◆ 総合的な災害対策における途上国支援（3年間で30億ドルの支援）
- ◆ 世界防災閣僚会議in東北（7月）

さらにSDへの取組みの基盤づくりとして、途上国の能力開発などを実施



グリーン経済とは

- ◆ 「経済と環境の両立を意味する概念として1980年代に登場。1990年代の「SDブーム」とともに議論活発化
- ◆ 2008年世界金融危機を克服する処方箋として、グリーン産業への大規模投資による景気刺激・雇用創出を核とするグリーン・ニューディール政策を各国が採用。グリーン経済に関する国際的議論活発化。
- ◆ 定義は様々で、リオ+20でも合意された定義はない。

国連環境計画 グリーン経済報告書(2011年)

グリーン経済とは「環境リスクと生態的希少性を大幅に減らしながら人間の全般的福祉と社会的公平性を改善すること」

OECDグリーン成長戦略報告書(2011年)

グリーン成長とは「人間の福祉を支える資源および環境サービスを自然資産が提供することを確保しながら、経済成長・発展を促進すること」

リオ+20最終成果文書(2012年)

グリーン経済は「持続可能な開発を達成するための手段の一つであり、政策オプションを提供できるかもしれない」(最終成果文書パラ56)

グリーン経済に関する合意内容



- グリーン経済が、SDを促進するための重要な手段の一つであること
- グリーン経済の実施は各国それぞれのアプローチでよいこと
- 途上国によるグリーン経済の実施は技術的・財政的援助を通じて支援されること
- 以下の情報提供を援助機関、他の国際機関と協力して行うことを国連に勧告
 - ◆ グリーン経済実施に関心のある国と支援パートナーのマッチング
 - ◆ グリーン経済政策のツールボックスおよびベスト・プラクティス
 - ◆ グリーン経済政策のモデル事例
 - ◆ グリーン経済政策を評価する手法
 - ◆ 有用な既存および新規のプラットフォーム

今回合意できなかった内容



- グリーン経済が経済発展の度合い、経済構造によらず、環境保護と経済発展を両立する解決を提示しうること
- グリーン経済の進捗を測る指標
- 各国のグリーン経済の進捗を国連の場でチェックする仕組み
- グリーン経済に関する技術移転、知識共有、能力開発を実施するメカニズム構築に向けたロードマップの作成



- ✓ 先進国は、グリーン経済によるメリットの記述を主張
- ✓ 新興国・途上国（G77+中国）は、SDを進めるうえで直面している問題の記述、およびグリーン経済の負の側面の記述を盛り込むことを主張。
- ✓ 合意にいたらず、両方の記述が削除。

グリーン経済をめぐる対立の図式



新興国・途上国の主張

グリーン経済への懸念

- ◆ 環境対策による追加費用
- ◆ グリーン保護主義

背景

先進国への不満 (CBDR不徹底)

- ◆ 不十分な資金・技術移転
- ◆ 過剰消費

先進国の主張

グリーン経済の世界的展開

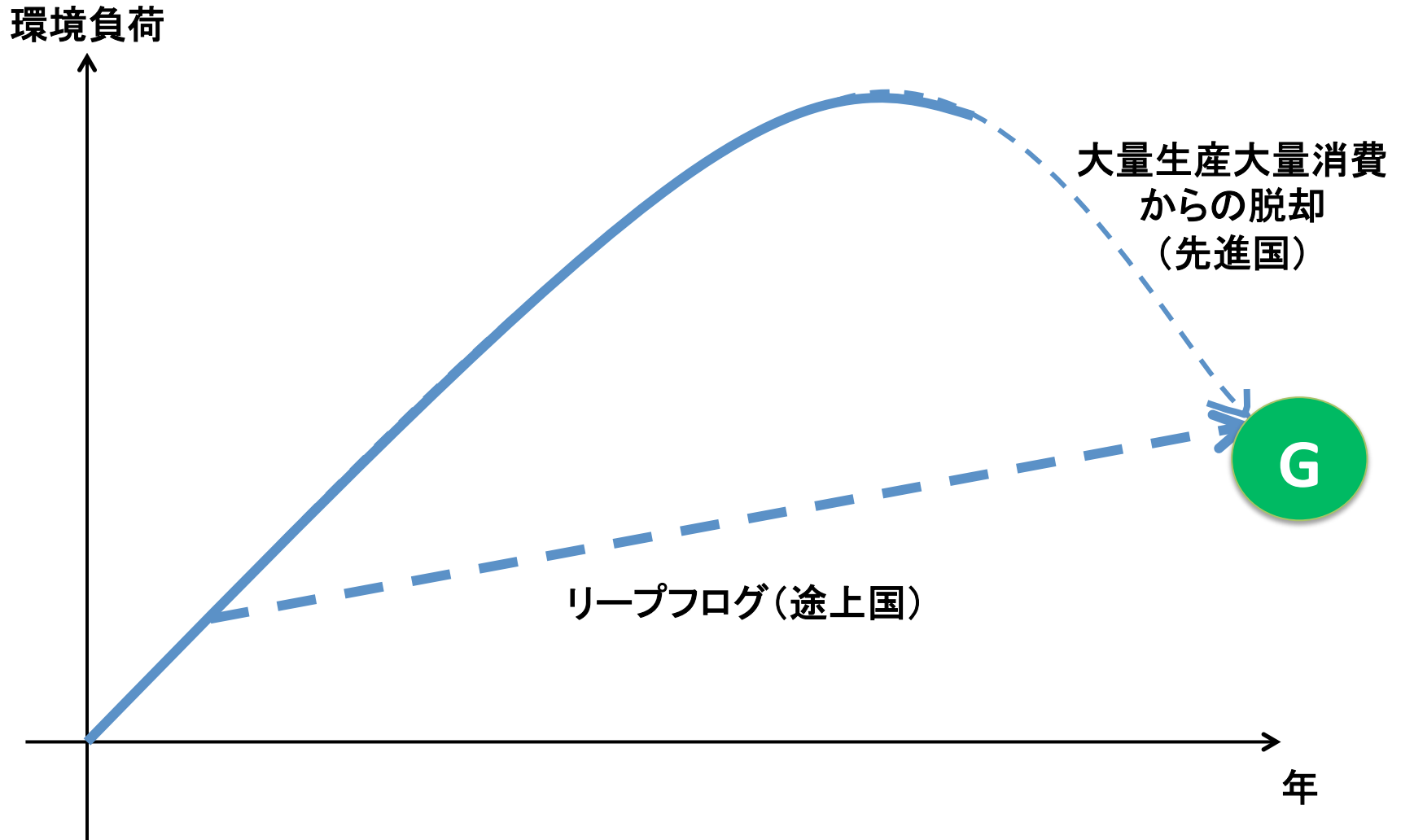
- ◆ 地球環境の制約条件の深刻化
- ◆ 公平な市場の拡大

背景

先進国が直面する困難

- ◆ 資本主義経済の基盤としての環境
- ◆ グリーンニューディール(新たな投資先)

投資のNew Frontier



＜同じゴールへ向けた異なる発展経路の追求＞

持続可能な開発目標(SDGs)



● 優先分野の行動志向型で簡潔な開発目標

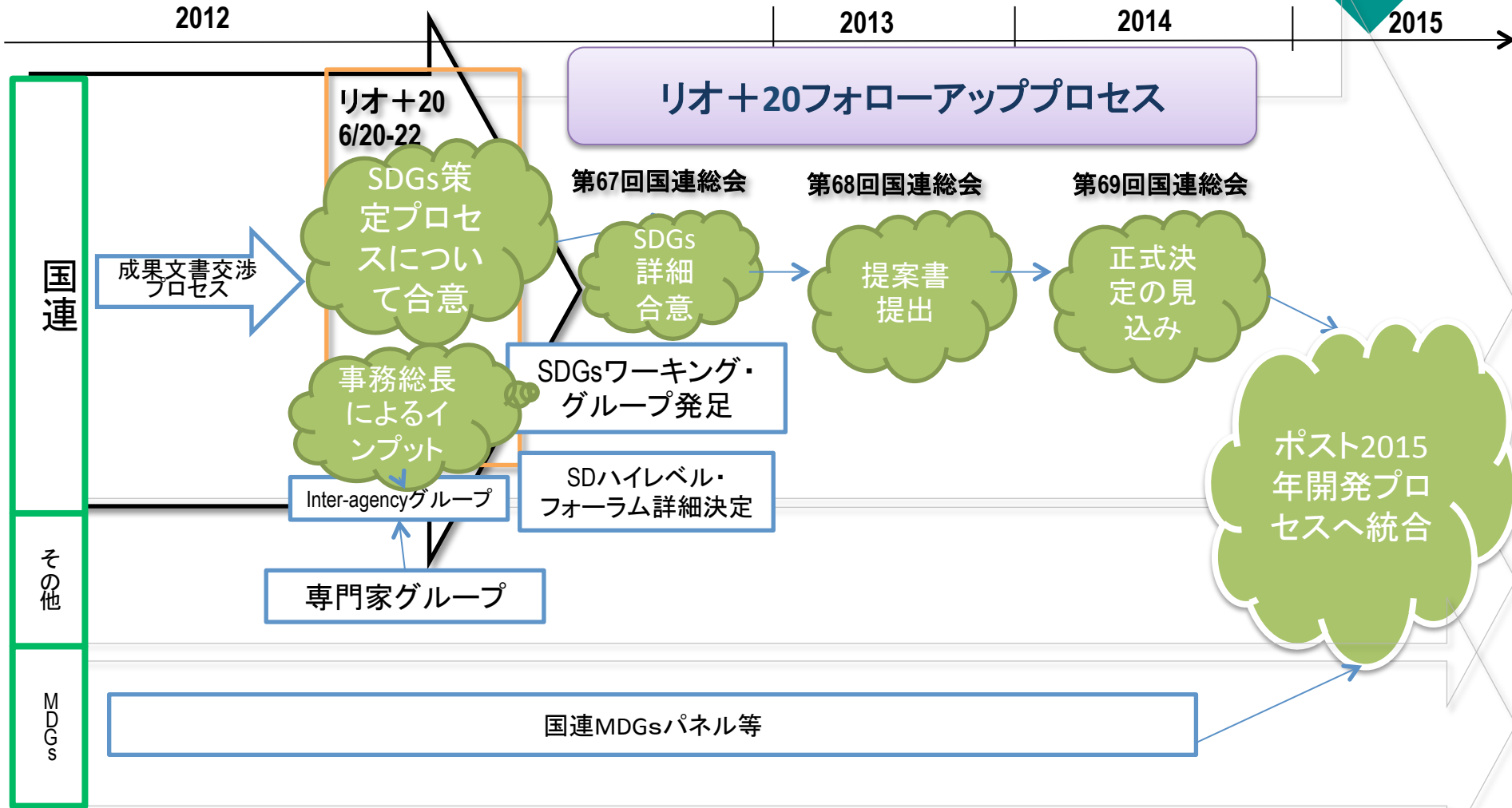
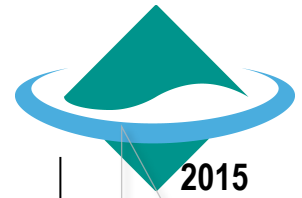
- 持続可能な開発の3つの側面(経済、社会、環境)に統合的に対応
- 先進国・途上国を対象とする普遍的目標
- 野心的な目標
- 限られた数の目標
- MDGsや2015年以降の開発アジェンダと整合性を持つもの
- 国際法、Agenda 21やJPOI、リオ原則その他過去のコミットメントに基づく
- 国の異なる現実や能力、発展のレベル、優先事項を考慮
- ターゲット、インディケーターによる進捗状況のチェック



課題

- ✓ 対象課題・分野、実施手段等に関して、先進国・途上国間に意見の相違。

SDGsに関する合意内容



□SDGsの作成に向けて政府間プロセスの立ち上げ

課題

- ✓途上国対象型
- ✓MDG7は明確な定量的目標ではない
- ✓他のMDGs に比べ森林問題や水問題、CO2排出等の課題に対する進捗は芳しいものではないとの評価
- ✓グローバル目標と国家目標の関係性



ミレニアム開発目標

- 開発分野における国際社会共通の目標
- 2000年に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言に基づいて事務局が作成
- 目標は1990年を基準年とし、2015年を達成期限
- 8つの目標とその下により具体的な21のターゲットと60の指標
- 先進国と開発途上国を含む世界中の指導者が、達成期限と具体的な数値目標を定め、目標の実現を公約
- 2005年国連首脳会合やMDGs国連首脳会合などの機会に、首脳レベルでMDGs達成に向けた努力の強化を約束してきていることに大きな意義

MDGs 8つの目標



- 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅
 - 1日1ドル未満で生活する人口の割合を半減させる
 - 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる
- 目標2: 初等教育の完全普及の達成
 - すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする
- 目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上
 - すべての教育レベルにおける男女格差を解消する
- 目標4: 乳幼児死亡率の削減
 - 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する
- 目標5: 妊産婦の健康の改善
 - 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する
- 目標6: HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
 - HIV／エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる



出典: UNDP

- 目標7: 環境の持続可能性確保
 - 持続可能な開発の原則を各国の政策やプログラムに反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。
 - 生物多様性の損失を抑え、2010年までに、損失率の大幅な引き下げを達成する。
 - 2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生施設を持続可能な形で利用できない人々の割合を半減させる。
- 目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進
 - 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする

ファイナンス戦略に関する合意事項



- 最終成果文書（パラ255）で、持続可能な開発ファイナンス戦略に関する政府間プロセス設立に合意。本プロセスは、持続可能な開発ファイナンス戦略策定に向けた資金需要の評価および新たなイニシアチブの評価を行う。
- 本プロセスは、地域グループからノミネートされた30名の専門家で構成される（最終成果文書パラ256）。

その他ファイナンスに関する合意事項



- ファイナンスについて、対GNP0.7%のODA目標を再確認することについて米国、カナダが反対。
- 一方、G77/中国などはODA目標再確認に加え、先進国が新たに持続可能な開発を推進するための資金として2013年-2017年に年間300億ドル以上、2018年以降は年間1000億ドル以上拠出することを提案。



- ✓最終成果文書(パラ258)では、対GNP0.7%のODA目標の再確認および対GNP0.15-0.2%を低開発国(LDC)へ振り向けることを明記。
- ✓一方先進国による追加的資金拠出については削除。